

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 主体的に学習に取り組むための工夫

算数科の授業において、主体的に問題解決することができるよう、教科書にある折れ線グラフのデータを自分たちが住んでいる金沢市のデータと入れ替え、旅行に行く都市の気温とを比較するという設定にした。また、図形領域においてICTの特性である【共有化】



【加工】【試行錯誤】を生かし、単元を通してタブレットを使用し、既習図形を組み合わせて考えてみるという構成で、児童の主体性を維持できるよう工夫を行った。



国語科の授業においては、書いてある言葉だけを取り出すだけでは理解は深まらないため、読み取ったことをタブレット上の挿絵に印をしたり、言葉で付け加えたりして児童が主体的に表現したいことを視覚的に提示できるようにした。

(2) 重点2 ねらいを明確にし、良さを実感できる交流の工夫

グループ活動において、ICTを活用しながら交流するようにした。ミライシードの「ムーブノート」機能を利用し児童が観点を整理しながら話し合い活動を行った。大型モニターに、タブレット上にまとめた考えを表示しながら、グループ発表を行った。ICTの特性を生かす工夫の向上のため、夏季に放送大学の中川教授によるICTの特性を生かした学習についての研修会を開き、共通理解をはかった。



2 取組の検証

2学期末職員アンケートにおいて、「ICTの特性を生かす工夫をしている」では、88%、児童アンケートにおいて、「ICT機器を生かし自分の考えを深めたり広めたりしている」では、低学年で96%、高学年で91%の結果が得られた。

3 成果と課題

一人一人が、やってみたい・考えてみたいという、主体的に問題解決を行うしかけとしてはICTでの授業展開は効果的であった。交流の場面でのICT活用方法については、すばやく個人の考えを示せる長所がある。自分の考えが表示された大型モニターを利用することで、話したいという意欲にもつなげることができた。ICTの活用方法については、指導者自身が実際に使用し多くの活用方法を見いだした上で、ICTが必要で効果的である場面と、そうではない場面をうまく使い分けていく必要があると考える。

